

先生方、陰ながら私達のことを支えてくれた地域の人々、多くの人々の温かい愛情のおかげでここまで成長できたのです。このことを忘れてはいけません。だからこそ、この場をお借りして多くの人々に感謝したいです。本当に今までありがとうございます。

もう一つ大切にしていきたいことは、判断力です。今までは両親、先生、先輩が私達の行くべき道を指し示してくれました。これからは自ら判断し、自分の責任で物事を前に進めていかななくてはなりません。現在私は大学に進学し、今まで勉強したことのないプログラムミングや理系科目全般・教職など多くのことを勉強しています。この勉強自体、将来どのように繋がっていくかわかりませんが、何を選ぶかは私自身が決めることです。私は将来、人の役にたてる事に就きたいと考えています。

しかし、私には知識も経験も足りません。できないことだらけです。でも一つ一つ自分自身で判断し、責任を持って行動していくことで道は開けると信じています。

また近年はインターネットが普及し、目まぐるしく情報が溢れています。受け身的では不確かな情報に流されてしまいます。結局は自身で情報を吟味し、積極的に行動していかなければ時代の変化に置いて行かれてしまいます。私

達人間は、機械では難しい判断力を武器に、これからの時代を生きていかななくてはならないと感じています。

最後になりましたが、私はいの町で育ったことを誇りに思っています。辛いとき思い出すのは、やはりこの町で過ごした日々です。私はいの町の空気や景色や人々が大好きです。この気持ちは、たとえどこにいても変わることは無いと思います。

以上で私の成人の主張とさせていただけます。ありがとうございました。

成人の主張



筒井 祐吏

本日は私達のためにこのような盛大な成人式を催していただき、誠にありがとうございます。またいの町長様をはじめ、ご来賓の皆様からのお祝いや激励の言葉を頂きましたこと、心より感謝いたします。皆様からのお言葉を真摯

に受け止め、成人の仲間入りとなつた自覚を持ち、これからはますます精進していきたいと思えます。

本日成人を迎えた者の中には、既に就職している人や学業に励んでいる人など、立場は様々ですが、それぞれこの二十一年間で学んだことを胸に自分の道を歩んでいることと思えます。

私は現在、高知大学地域協働学部に通い、地域の人との協働、チームメンバーとの協働、などについて学んでいます。この学部に入り、地域のことを産業の面、生涯学習の面、地域福祉の面など多くの視点から考えることで、地元について改めて考えるようになりまし。共に学ぶ仲間も高校の十九人から六十人に増えたことで、意見交換にも深みが増し、刺激を受けています。さらに、高校までの内容とは異なつた専門的な内容を学ぶことができるので、日々の学びを楽しく思えます。

また私は、吾北地区で青年団を復活させる活動に携わっています。この活動のきっかけとなつたのは、地域の方からの「青年団を復活させてくれないか」という言葉でした。青年団が何か分かつていませんでした。そこで、青年団について調べ始めました。調べていくにつれ、地域の方から言われたように、吾北にも青

年団があつたほうがいいのではないかと考えるようになり、青年団を復活させよう、若者が活動できる基盤をつくらうと行動を始めました。

この会場にいらつしやる人の中には青年団とは何か分かつていない人もいると思います。青年団とは、地域に住む勤労青年を対象とした自主的な組織とされています。この定義通りに考えると、地域に住む若い人の組織ということになります。しかし、地域には少子化という課題があるように若者が減少しています。このような現状で青年団を復活させたとしても、若者は減少し続けるため、青年団の活動を維持することができなくなる可能性が高いと考えました。そこで、復活させる「Clover 吾北」は若者だけでなく、地域の方や学生、子どもも含めた地域全体で活動していく組織を目指しています。この「Clover」という名前には、先ほど述べたように若者、地域、学生、子どもで活動していこうという思いと、吾北地区全体で活動していこうという思いが込められています。地域で活動できる基盤を築くことで、家でもない学校でもない職場でもない、新たな居場所として、また活躍の場として、青年団が一人一人にとって、なくてはならないものになるのではないかと考えています。

青年団を復活させる活動を始めて約一年がたちます。この一年の間に多くの人と出会いました。今まで関わつたことのなかつた地域の方、青年団を調べる際にお世話になつた方、復活させるメンバーとして初めて出会つた方など、人の繋がりを感ずることができ一年でした。吾北地区の青年団は休団状態であり、活動を再開することは容易ではありませんでした。しかし、そんな時でも地域の方々は支えてくださりました。地域の方の支えがあつたからこそ、少しずつですが、青年団として活動することができているのだと思います。青年団での活動は、横の繋がりがだけでなく、縦の繋がりを生むきっかけになります。何かに挑戦してみたい人、何か活動してみたい人、趣味を活かしたい人、多くの人の参加をお待ちしております。私はこれからも学部での学びを活かし、地域で活動しながら成長していきたいと思えます。

最後に、私達がこうして成人を迎えることができたのは、いつも支えてくれた家族や導いてくださった先生方、そして地域の皆様、共に歩んだ仲間のおかげです。この感謝の気持ちをお忘れず前向きに、これからは挑戦し続けていくことを誓って、成人代表の主張とさせていただきます。